



藤原 孟 議員
(無会派)

問 飲酒運転は、当事者のみならず周囲に多大な損害を与える重大な犯罪である。

飲酒時は、重大事故に直結する悪質で危険度の高い運転であり、いかなる理由があろうとも絶対に許される行為ではない。

一人ひとりが飲酒運転を「しない・させない・許さない」強い規範意識を持ち、飲酒運転撲滅に努め、以前より強い宣言文の発信を行い、さらなる普及啓発対策への取り組みについて伺う。

(1)令和2年8月、札内豊町で5人の死傷者が出る交通事故が発生。

また、令和3年10月には本町のランドマークである旧役場庁舎に車が突っ込む物損事故が発生。この2件の交通事故の要因と概要は。(2)令和3年の北海道交通安全協会の飲酒運転根絶を呼びかけるグッズは。

(3)町をあげて飲酒運転根絶の普及啓発は。

町長
(1)令和2年8月の札内豊町の事故

問 飲酒運転は重大な犯罪です

答 「誰も見ていないから」や「ちょっとなら」が事故に発展することを強く訴える

は、新聞報道によると、運転していたのは17歳の少年で2018年頃から無免許運転の常習、事故前にビールを飲み、時速152キロで走行し、運転操作を誤ったのが事故の要因と考えられている。

令和3年10月の旧役場庁舎物損事故の発生要因は、飲酒運転により運転操作を誤ったものと伺っている。

(2)北海道交通安全推進委員会では、交通安全や飲酒運転根絶を呼びかける、啓発用ポケットティッシュやポスター・チラシ・夜光反射材・メモ帳などの啓発グッズを市町村の交通安全推進協議会等へ配付しており、また、交通安全運動として年に4回それぞれ10日間、旗波作戦など交通安全運動の取組を全道で実施している。

(3)町では、交通安全運動期間中に、幕別町生活安全推進協議会が主体となり、街頭啓発旗波作戦を行い、啓発グッズを配布し交通安全を呼びかけ、年末の歳末地域安全運動では、各公区的生活安全推進員や

帯広警察署員とともに商店等を巡回し、飲酒運転根絶や防犯を呼びかけるポスターやグッズを配布し啓発に努めている。

今後は、7月13日の飲酒運転根絶の日を広く周知するとともに、飲酒運転による悲惨な事故を忘れないよう広報紙等で紹介し、「誰も見ていないから」や「ちょっとなら」などの油断が一生を左右する事故に発展してしまうことを強く訴え、悲惨な事故を記録した巡回パネル展を開催するなど、啓発活動に努める。

問 模倣犯の出現を恐れる保護者の声

答 施設整備と安全点検、危機管理マニュアルの再確認を行う

問 宮城県登米市の豊里こども園に、包丁を持った男が侵入。「子どもなら簡単に殺せると思った。」このような危険な考えを持った行動を模倣する者に対し、町の施設の危機管理マニュアル、防犯訓練、防犯グッズ、構造

町長

物侵入対策は。危機管理マニュアルは、わかば幼稚園で「防犯緊急対応マニュアル」を平成16年に、町立の認可保育所は「幕別町立認可保育所危機管理マニュアル」を平成23年に作成している。

各マニュアルでは、職員に求められる施設管理や予防行動、不審者と判断するためのポイントや応答方法、不審者と判断してからの行動手順や職員同士の連携対応等について定め、常に職員室の目の届くところに配置し、職員間で不審者情報や対応方法についての確認と情報共有を行っている。

防犯訓練については、わかば幼稚園と町立の認可保育所では警察署に協力をいただき年1回実施。

へき地保育所においては訓練は実施していないが、職員の役割分担や対応、園児には避難時の約束事の確認を年1回行っている。

防犯グッズについては、わかば幼稚園と町立の認可保育所には、不審者確保用の「さすまた」や危険を知らせるための「非常用ブザー」を各クラスに配備。

へき地保育所には、警察署への通報と連動する「110番非常通報装置」を設置するとともに、玄関の施錠を行っている。